

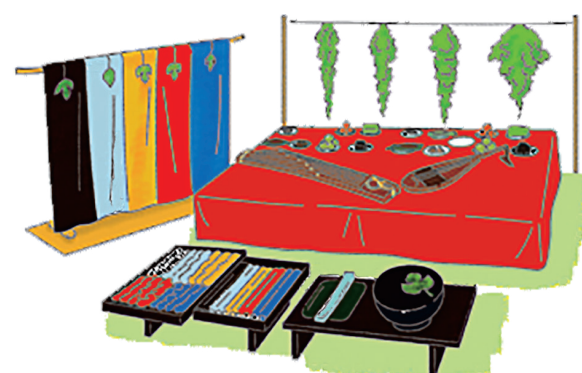
京の年中行事



たな ばた

七夕の節句 (笹の節句)

七夕の節句の由来は、中国に古くから伝わる織姫と彦星の伝説です。それが機を織り祖霊に捧げる「^{はた}棚機」という日本古来の行事と結びついたといわれています。中国では、竹竿に糸をかけて裁縫や習字の上達を星に祈る「^{きっこうでん}乞功奠」という習わしがあり、平安貴族たちがこれをまねて、彦星を運ぶ船の「^{かじ}舵」と同じ読みの「^{かじ}梶」の葉に、和歌を書いて願い事をしました。



乞功奠



梶の葉

家庭での七夕

諸芸上達の願いを、短冊にしたため、笹につるすようになったのは江戸時代から。今では芸事だけでなく様々な願い事が書かれています。また、短冊と一緒につるす飾りは、長寿を祈った折鶴、裁縫の上達を願う紙衣や吹き流し、大漁を願う網飾り、金運上昇を願う財布（巾着）などもあります。今年は短冊以外にも飾ってみると面白いかもしれませんね。



七夕の食事

七夕の行事食は「^{そうめん}素麺」です。七夕は旧暦の7月7日に行われていたことから、現在でも7月7日が定着していますが、旧暦の7月7日は現在の新暦に置き換えると8月になります。8月に京都で「京の七夕」として催しが行われるのはこのためです。8月は、厳しい暑さで食欲が落ちる時期なので、素麺なら食べやすく、好んで食べられたとされています。中国ではこの日「^{さくぺい}索餅」という小麦粉と米粉を水で練って、塩を加えて縄状にした食品を乾燥させて保存し、茹でて食べたそうです。これが日本に伝わり素麺の原型になったといわれています。七夕の日は御自宅で、星の形に切った野菜を添えて、素麺はいかがですか



京都をつなぐ無形文化遺産とは

京都には、時代とともに変容しながら、世代を越えて暮らしの中で伝えられてきた数多くの無形文化遺産があります。それらの価値を再発見・再認識し、内外にその魅力を発信するとともに、次の世代へ大切に引き継いでいこうという市民の気運を盛り上げるため、平成25年4月、京都市独自の仕組み「京都をつなぐ無形文化遺産」制度を創設し、平成30年3月には「京の年中行事」を選定しました。

西京区役所洛西支所と文化市民局では、この「京の年中行事」を区民の皆様に広く知っていただくためのパネル展示を行ってまいります。

